

5－2－2 短期大学教育改革 ICT 戦略会議

<事業計画>

短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動のコンソーシアムをネット上に形成し、教育を通じた「高齢者との交流促進・課題解決策の支援事業」、「地域価値発見の支援事業」、「地域課題取組み情報共有の支援事業」のモデルを策定するため、私立の参加短期大学間で試行し、支援事業のニーズや課題、教育効果を点検する「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」を実施する。

<事業の実施状況>

「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会」と「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会小委員会」を継続設置し、地域貢献支援事業の試行計画に向けた準備とコンソーシアム活動のプラットフォーム構築、新型コロナ感染症拡大防止対策中での「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」実施の可否について検討した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会

2020年(令和2年)4月11日、6月9日、12月26日、2021年(令和3年)2月27日に平均5名が出席して4回開催し、短期大学教育改革 ICT 戦略会議開催の可否、地域貢献支援事業の試行計画の準備について検討した。また、コンソーシアムに参加の短期大学(8校)の内、5校もオブザーバーとして加わり、試行計画への取組みについて検討に参加した。

(1) 短期大学教育改革 ICT 戦略会議

コンソーシアム参加校での試行計画取組みの見通しを確認した結果、新型コロナ感染症拡大により、短期大学での多くの授業がオンラインに切り替えられたことから、教員と学生とのコミュニケーションがとれなくなったことから、前期での試行授業は実施が困難と判断し、9月に予定していた短期大学教育改革 ICT 戦略会議での報告及び意見交換ができないため、本年度の開催を中止した。

(2) 地域貢献支援事業の試行に向けたコンソーシアムの活動状況

(2)－1 高齢者との交流による支援事業

① 当初、実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学、和泉短期大学の3校で進める予定であったが、新型コロナ感染症の拡大を受けて授業が見通せないことなどから、実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学の2校で試みることになった。

試行計画の前段階として、「ICT 活用による世代を超えた交流活動」をテーマに、異世代の参加者(短期大学OB、日野市職員、地域の自治会長などの社会人、高齢者、9～12名)と交流活動を実施した。

② 短期大学の昼休み時間(20分)を活用し、2020年6月から8月の前期に8回(8週間)と10月から11月の後期に6回(6週間)、合せて14回(14週間)、4グループから9グループを編成して Zoom で実施した。なお、交流活動を始めるための説明会を、前期は6月上旬、後期は10月上旬に実施して臨んだ。

③ 前期8回の内、最初の4回は、2短期大学(23名)で「学生同士の交流」を行い、その後で「異世代(12名)との交流、(全体で31名)」を4回実施した。また、後期6回の内、最初の2回は、2短期大学(25名)の「学生同士の交流」、その後で「異世代(9名)との交流、(全体で38名)」を4回実施した。

運営は、学内事務職員と情報センターの支援、2短期大学の各担当教員1名で対応した。

- ④ グループ討議は、ブレイクアウトルームの機能を用いて、1ルームを2名から4名の学生と1名から2名の異世代で編成した。「学生同士の交流」は前期に4ルーム、後期に5ルーム、「異世代と学生との交流」は前期、後期とも9ルームを設けて実施した。
- ⑤ 異世代との交流は、以下のような方法で各週進めた。
- * 第1週:顔合わせを行い、学生、高齢者間で聞きたいことを相互に質問
 - * 第2週:高齢者からの質問に学生からのミニプレゼンと意見交換
 - * 第3週:学生からの質問に高齢者からのミニプレゼンと意見交換
 - * 第4週:各ルームの代表学生から、学んだことを教職員、自治体職員に発表
- ⑥ 交流での質問内容は、以下のような視点で行った。
- 【学生から高齢者への質問内容】**
- * 人生の体験、仕事の内容、健康維持の方法、日々の過ごし方、最近嬉しかったこと、就職活動のアドバイスなど
- 【高齢者から学生への質問】**
- * 将来の目標や夢、多くの若者が地域活動に参加してもらう方法、コロナ禍の授業の様子、大学で学んでいる内容など
- ⑦ 交流活動の成果として、主に以下のような感想があった。
- 【学生からの感想】**
- ・ 異世代との話し合いで視野が広がり、社会や将来を考える機会になった。
 - ・ 画面を通してコミュニケーションがとれる楽しさと幸せを体験、心のこもったコミュニケーションの大切さを学んだ。
 - ・ 異世代が考えている美容への要望が聞けて将来の参考になった。
 - ・ リモートのICT活用力の向上と、見やすいスライド作成ができるようになった。
- 【担当教員からの感想】**
- ・ 同世代、高齢者、社会人からの刺激を受け、その後の学習意欲につながる機会を提供できた。
 - ・ 社会との接点を持つ、机上の学習とは違う学びを提供できた。
- 【異世代からの感想】**
- ・ 若い人との交流により、自分の生活を見直すきっかけになった。
 - ・ 質問され、考え、答えることにより、自分に向き合うことができた。自分の切れかかった「やる気スイッチ」を押し、感謝している。
 - ・ 機器の使い方やZoomを学ぶことで、他のオンライン活動に参加できるようになった。
- ⑧ 交流活動の課題は、以下のような点が確認された。
- * 昼休みに高齢者とリアルタイムでネット交流することの難しさを克服する対策
 - * 高齢者に対するネット環境の確保とパソコン操作などのサポート体制の対応
 - * 交流活動を高齢者に呼びかけるコーディネーターの対応
- ⑨ 来年度の活動計画としては、上記の課題などを踏えて、2021年6月、7月に試行授業を計画しており、工夫改善した取組みの様子を整理し、9月9日の戦略会議で理解を共有できるように働きかけるため、意見交換を行うことを確認した。その際、交流活動の進め方として、学生同士の交流から始め、社会人、高齢者との交流につなげていくプロセスが大切であることも確認し、紹介・提案することにした。

(2)―2 地域価値発見支援事業

- ① 当初、大阪夕陽丘学園短期大学、上田短期大学、別府大学短期大学、和泉短期大学の4校で試行する計画を進めていたが、新型コロナ感染症の拡大により授業の実施が見通せないことなどから、大阪夕陽丘学園短期大学1校となり、3つの支援事業に取組んだ。
- 一つは三重県志摩市との地域価値発見支援事業、二つは大阪市天王寺区との食育活動支援事業、三つは兵庫県養父市との文化施設運営支援事業を以下のように実施した。
- ② 志摩市と「文化・教育・学術・まちづくり等の分野の推進に関する連携協定」を行い、真珠の魅力をPRするため、キャリア創造学科2年生60名が正規授業の一環として、アコヤ真珠

の魅力を発信するショーを企画・演出する「パールズコレクション」を令和3年2月に準備していたが、急遽緊急事態宣言の延長で中止となつたため、代替の支援事業として、学生が制作したアクセサリーを期間限定で販売するため、短期大学のホームページで情報を発信し、2月に大阪心斎橋の店で販売した。

* 成果について、教員から「作品の制作過程やコーディネート方法などを説明しながら販売を行い、学校では見ることのできない輝いた表情で終始頑張りをみせるなど、学生たちの大きな成長を感じることができた」、また、学生から「制作したものが人から褒められて大変嬉しかった」などの感想が報告された。

以上その他に、志摩市立図書館リニューアルオープンに伴う市民によるパッチワーク縫帳制作(舞台幕)のボランティアとして、キャリア創造学科ファッションデザインコースの学生が参加し、縫帳の一部分を制作した。

* 成果について、以下のような感想が報告された。

- ・ 学生からは、遠く離れた知らない土地の人々と繋がる意識を持てた。
- ・ 教員からは、地域との連携を学生が素直に受け入れ、地域の人々に喜んでもらえるようにと、丁寧に縫う姿に学生の成長を見ることができた。
- ・ 自治体からは、三角形などの鋭角なパーツを縫い合わせる技術について、非常に仕上がりがきれいで、作品としてとても良いものに仕上がっているとの高評価を得た。

③ 大阪市天王寺区健康局と「健康・栄養・食育の推進に関する連携協定」を行い、食物栄養学科2年生が生活習慣病予防のためのレシピ作りに協力し、提供したメニューを6月、7月に大阪市各区保健福祉センターの健康講座及び料理レシピ検索サイト(クックパッド)で情報発信を行った。

④ 養父市と9月に包括的連携協定を行い、当面、新設の文化施設のオープニングイベントで結婚式をプロデュースすべく、キャリア創造学科の学生たちが地元自治体と協力しながら、ウェディング業務の企画を進めている。

⑤ 課題としては、コロナウイルス感染症対策を踏まえたイベント協力、三重県志摩市や兵庫県養父市と大阪とのコラボレーションの企画、1年生の参加や複数科目での参加が確認された。

⑥ 来年度の活動計画としては、上記の課題を踏まえ、以下のように各自治体に支援事業を展開することを確認した。

【志摩市への支援事業】

* 大阪天満宮とのコラボレーション企画として、2021年後期にファッションショーの開催、2022年2月にパールズコレクションを予定している。さらに大阪阪急梅田本店で志摩市真珠のアクセサリーブースも予定している。

【大阪市天王寺区への支援事業】

* 食物栄養学科2年生120名で食育のポスター作りを行い、市に提案することを計画している。さらに、志摩市、養父市の地産地消を用いたメニュー開発も計画している。

【養父市への支援事業】

* 2021年度新設の文化施設の落成イベントとして1組の結婚式を行うことになり、企画運営に大阪夕陽丘学園短期大学のノウハウと学生らの若い感性を採り入れる予定にしている。

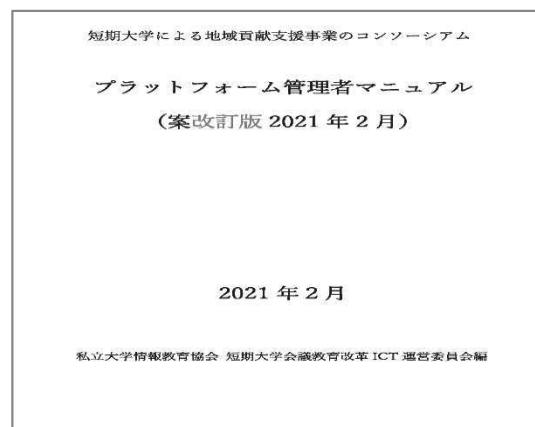
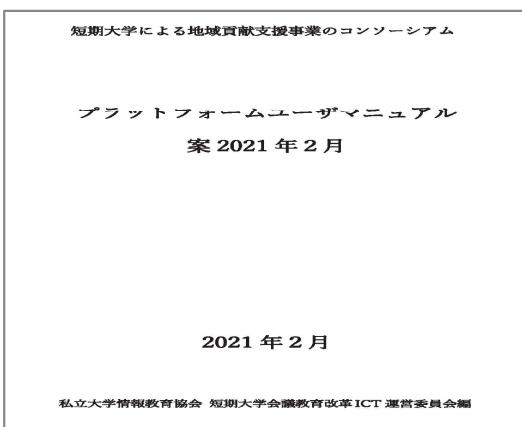
(3) 地域課題取組情報共有の支援事業

① 「短期大学会議教育改革ICT運営委員会小委員会」でコンソーシアム活動のプラットフォームの構築と運用について検討し、Google Classroomを使用することにした。コンソーシアムの参加者(参加短期大学の担当者)をメンバーに登録し、以下の図のように3つの地域支援事業ごとにクラスルームを開設するとともに、新たなクラスルームの開設やメンバーがクラスルーム活動の成果を確認できるように「プラットフォーム運用マニュアル(2021年1月版)」を作成し、コンソーシアムに参加登録した短期大学が推進する地域貢支援活動の成

果、進捗状況などを公開共有できるように構築した。

Google Classroom登録短期大学メンバー

実践女子大学短期大学部
山野美容芸術短期大学
大阪夕陽丘学園短期大学
和泉短期大学
別府大学短期大学部
上田女子短期大学
聖徳大学短期大学部
大阪学院大学短期大学部



公開情報の選定は、各支援事業の管理者が担当することとした。運用マニュアルの構成は、プラットフォームへの入り方、支援事業の使用方法、支援事業の登録、メンバー管理と課題としている。また、「プラットフォーム管理マニュアル(改訂版 2021年2月版)」を作成し、3つの支援事業別の管理者、プラットフォーム全体を管理する総合管理者の役割、管理業務の操作方法などを明示した。

- ② 地域課題の取組情報をプラットフォームに掲載・共有する手順として、コンソーシアムで実施している取組み情報を掲載するとともに、インターネット上で公開されている大学、短期大学の取組みを探探し、リスト化してリンクをかける作業を進めることを確認した。

(4) 短期大学教育改革 ICT 戦略会議の 2021 年度事業計画案

- ① 短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動のコンソーシアムをネット上に形成し、教育を通じた「高齢者との交流促進・課題解決策の支援事業」、「地域価値発見の支援事業」、「地域課題取組み情報共有の支援事業」のモデルを策定するため、私立の参加短期大学間で試行し、支援事業のニーズや課題を共有して可能性を意見交流する「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」をオンライン方式で実施することを確認した。
- ② プログラムの構成として、地域貢献支援事業の試行段階における課題と成果を2支援事業の活動報告を踏まえ、全体討議で多くの短期大学が参加しやすい方法などを検討するとともに、話題提供として、オンライン授業の実施結果について学生からの声を調査・分析し、課題を共有するなどの情報提供を紹介することを確認した。